

存在感増す埼玉のIT産業

埼玉県内のIT業界に、追い風が吹いている。埼玉県がIT産業の育成支援に向けてマイクロソフトと提携。ここに至り、県内でIT企業の表彰も相次いでいる。また、埼玉県情報サービス産業協会が創立10周年を迎え、支援強化に乗り出そうとしており、これまで以上にIT業界に熱い視線が注がれそう。ただ、業界内に「東京志向」が根強く残るのも事実だ。

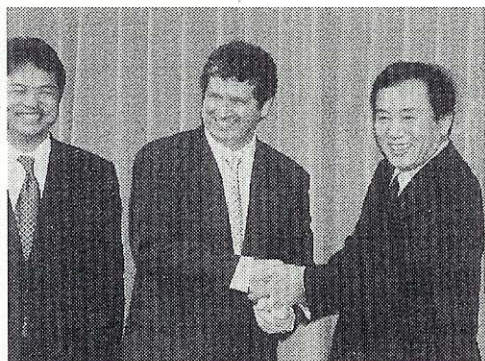
(さいたま・碩靖俊)

「環境が充実するので開発にも拍車がかかる」「一気の上場を目指したい」と士気が上がる。同けるKnet（埼玉県行田市）の野村泰豪社長は目を輝かせる。同社は埼玉県がマイクロソフトと協力して立ち上げた「チャレンジャーITベンチャー支援プログラム」の支援対象企業。TREND每年1回参加を募集するIX（さいたま市浦和区）の庄田正貴社長も

育成支援を本格化

根強く残る「東京志向」

1月16日の覚書調印式で握手する上田埼玉県知事④とヒューストン・マイクロソフト社長



が受賞するケースが続々と増えている。

に乗り出そうとしていることだけでなく、業界内での停滞感を吹き飛ばす「突風」にもなりそう。

埼玉県内の情報サービス産業は04年売上高が全国12番目の1146億4700万円、事業所が同16番目の105社という産業規模。人口700万、県内総生産約20兆円

ただ、県内で育ったIT産業や人材が東京都に流出してしまうのも事実。「場所を選ばないのがIT企業」とされるが、結局、人の交流が活発という理由から東京への移転を決めるIT経営者が後を絶たない。「東京に近い」という埼玉県の売り手が逆に「あなた」となっているのは皮肉だ。上田清司埼玉県知事はベンチャー企業の「聖地」をつくる「シブサワ・シティ」構想を打ち出した。郷土の誇りとされる渋谷一翁にちなんだもので、チャレンジャースピリットあふれるITベンチャーの集積が期待されている。

て、世界のトップ企業が直接サポートしてくれる願ってもない機会だけに応募が殺到しそう。

一方、埼玉県が創設した「第1回渋谷栄一ベンチャーードリーム賞」では、IT関連機器の開発製造を手がけるアイ・シー・イー（埼玉県久喜市）が大賞に選ばれた。「第1回埼玉県ベンチャー企業優良製品コンテスト」などでも、IT企業なるIT人材育成の強化